

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201155		
法人名	株式会社あじさい		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	群馬県高崎市石原町2348-1		
自己評価作成日	令和6年1月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和6年2月16日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

とても豊かな自然の中でゆったりとした時間を過ごして頂けるよう努力しています。空気がきれいなので換気に気をつけ、ベランダで外を眺めたり、お茶を召し上がって頂いています。チョット歩いた処から、花火大会を見物できます。万灯慧や初詣も歩いて行けます。食堂から初日の出を見ることが出来ます。桜の木に囲まれ、お花見はベランダから出来ます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高崎市内が一望できる立地にある。利用者にケアの悩みがある時は、その方の性格や問題解決方法を手掛かりに職員全員で話し合える機会を設定して、話しかけや会話方法を検討・共有して実践に繋げている。利用者の顔を見て利用者の今の身体や精神状態を推察し、理念にある「利用者の想いに寄り添い」をもとに、その人のペースを優先した関わりに繋げている。事業所ではホールでの定位置を作らず、その時に居たい場所を本人が選択出来るようにしている。拘束をしない方法を検討するのではなく、拘束に至るような行動や感情の変化に注目し、きっかけになる原因を探求し、時には家族の力を借りながら、人格尊重のケア実現に努めている。介護計画では、利用者目線での具体的なサービス内容が記載されて、支援においても、評価においても判断しやすい工夫がなされている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議にて、理念を確認(合って、話し合い、理念にもとずいたケアをどうしたら実践出来るか、話し合っています。利用者様の思いを探る事を第一に考え、寄り添うという具体的な行動とケアについて、常に話し合っています。	職員は理念の本旨を理解して、入浴・食事等日常での個々の楽しみや習慣を把握して、利用者のペースを最優先にした支援を心掛けている。管理者は職員のペースで業務を進める状況があった時はその場で指導し、理念の本旨の再確認を行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域清掃の折、地域の方々があじさいの前を月一回の集合場所に設定して下さり、職員も参加して交流しています。町内会の情報を回覧板で得ています。地域のボランティアの方に来所して頂いて、三味線・民謡などを提供して頂いています。町内の役員を職員が引き受けています。	地域の環境委員を職員が引き受け、地域のゴミ出しや、困難家庭の解決に協力している。地域清掃では事業所の駐車場を集合場所として提供し、活動に参加している。季節の野菜や果物等の差し入れがあり、利用者の食事作りにも役立っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サポーターシールを玄関に貼って、認知症についての相談がしやすいようにしています。相談は随時対応させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、開催出来ず、現在にいたっています。以前は、家族全員の参加と安心センターの方、長寿社会課の職員の方に参加して頂いています。利用者様一人一人の状況をありのままに報告して、ご要望をお聞きしています。	コロナ禍により、会議の開催ができていない。令和6年度からの開催を希望している。	今後の課題や会議の方向性を話し合い、参加メンバーの再考等を検討することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	安心センターや、長寿社会課に相談しながら、事業所の職員状況や入所者様の対応など指導を頂いています。市からのファックス、お知らせなど文書で届いた情報は、会議の時に提供し、情報を共有して、サービスに反映出来るよう努力しています。	事故時の対応や身寄りのない利用者の死亡後の対応などの手続きを、安心センターや市からアドバイスをもらっている。書類の手続きや提出時には、市の窓口を訪れている。市からの情報は会議で報告し、職員間で共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三か月に一度、身体拘束委員会を開催して、拘束しないケアについて職員全員で話し合っています。利用者様が望んでいることを探る事に努力して、思いを言葉で表現出来ない場合でも、なんとか思いにたどり着けるように努力して、尊厳を守る努力をしています。	利用者の行動や感情に注目し、職員全員で拘束しないケアについて話し合い、きっかけになる環境や個々の自動反応を探求し、家族と一緒に安定する為の方法を具体的に模索し、拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症介護基礎研修eラーニング研修に参加し、その時の資料を職員同士で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居契約の際に、制度の説明をして、権利が守られるように努力しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時は、ご家族様と読みあい説明を行い、重要事項を理解して頂けるよう努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。又、ケアに関しては、毎月のお便りの中に欄を設けて、伺っています。	毎月、イベントや日常の写真と一緒に、利用者の気になる体調や行動を記載して、個々の家族に郵送している。ケアに関しては家族と職員で利用者の状況を相談し、食事介助に参加する家族もあり、家族の希望通りの支援の実現に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には、社長も参加して、職員の要望・意見を聞いて、反映出来るようにしています。	イベントは、職員が中心になって企画している。イベントや職員の体調を考慮して、勤務表を作成しており、必要時、社長や管理者がフォローに入る体制がある。職員の入職前の体験や文化を聞く機会を、日々の中で持つように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長は職員の意欲や向上心が増すよう、様々な支援を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社長は研修の機会を提供し、参加費用も負担、実践に生かせるよう指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会や同業者と交流して、サービス向上に努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族より、生活の様子、環境について詳しく伺って、不安をなくすよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、困っている事、不安な事を、しっかり話し合っ、毎月のご様子をお知らせしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の要望が、反映出来るよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様といっしょに過ごし、助け合っ生活しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、一緒に歌を歌ったり、散歩をしたりして交流しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と出掛けられ、親戚と交流したり、友人が訪問して、お茶会に参加したりしています。	「馴染みの人」を家族・親戚・友人、「馴染みの場」を基会所・美容院・喫茶店・食事処等と捉えて、家族と相談して関係継続の機会を作っている。将棋や囲碁を楽しめる環境を作り、利用者同士で打ち合う様子がある。今後は、家族と一緒に食事が楽しめる環境づくりを目指している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様がゆったりと安心して過ごせるよう、カラオケ・レクリエーション・ダンスなどで交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もお見舞いに行っており、相談員・主治医・ご家族に連絡をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の近くでゆったりと表情を見て、その思いをさぐっています。耳の不自由な人とは筆談をしています。	表情や言動、感情の変化のきっかけを日々の生活の中で観察し、声掛けをして思いを聞き出している。過去由来の対応の場合は、家族に相談している。職員間で情報共有し、対応を都度話し合い、日々本人本位のケア実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様のこれまでの生活の様子を大事にした接し方をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人が満足出来るような一日一日が過ごせるよう、それぞれの思いに添った支援をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	内部研修の中で、家族の意見や本人の要望などを考慮して話し合い介護計画に反映しています。	本人の傾向や反応を具体的に表現し、対応出来るようなサービス内容が計画されている。モニタリングは日々の記録をもとに職員会議で担当職員・ケアマネージャー・管理者で話し合っている。	モニタリングの内容の記録を残すことで、評価の理由を明確にするとともに、日々の各種記録が計画に反映される記録の作成となるように検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は緊急の記録と分けて記入し、職員間で介護の見直しなどに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の事情や本人の変化にそった、支援を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の指導のもと、避難訓練・心肺蘇生のやり方を学んでいます。地域ボランティアの受入も行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望の医師が往診に来られます。緊急の時は、職員と一緒に受診することもあります。	月曜日から金曜日まで、毎日訪問診療がある。訪問看護師による健康チェックが週に1回あり、専門外の健康障害には医師の指示を受けて家族と連携して受診など、安心出来る体制が作られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護師に来て頂き、摘便などして頂いたり、アドバイスを受けています。必要な時は訪問看護が入ります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時、主治医に日常の様子を詳しく伝えていきます。入院時には家族の要望を踏まえ、担当医には情報を提示しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指導書を出して、入居時に説明をしています。「最後までここで」との要望が、三家族様から出ています。	昨年4例の看取りを実施している。入居時に説明を行い、意向を確認している。重度化が見られた時には、医師から家族に説明があり指針の確認を行っている。家族と医師・看護師と話し合いながら、看取りの環境を提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生、AEDの使用法など消防署の指導の元、おこなっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域が高齢化の為、区長、民生委員と連絡を取り合い、当施設も避難場所となっています。	年に2回の訓練を行っている。春には消防署立ち合いのもと、夜間の火災を想定した訓練を実施している。避難方法では、立地状況から消防の誘導で、隣の家へ直接部屋からの避難経路を計画している。次年度から、災害を想定した訓練を追加する予定がある。事業所と避難先に備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が何を大切にしているかを探り、安心できるような対応に努めています。	排泄介助は、さりげなく声をかけ誘導している。口腔ケアもその人のタイミングで声掛けをし、口を開けて貰えるケアを実施している。本人のペースを中心に寄り添い、時間で焦せることのない方法を職員全員で話し合い、尊厳重視の利用者本位のケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に飲みたい物を確認して、今召し上がりたいかもお聞きしています。入浴も起床も丁寧にお聞きしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	部屋で過ごしたいのか、何をしたいのかをゆっくり時間をかけてお聞きしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度美容院に来て頂いています。爪の手入れ、お化粧品も出来る方にはして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、天ぷらを揚げたり、食器と一緒に洗ったりしています。洗濯物を畳んで頂いています。	ホールにはソファと畳、食堂があり、席を決めていない。その時に居たい場所で、食事が摂れるようにしている。近所や職員からの差し入れの季節の野菜や果物を提供するようにし、食後のコーヒーや甘酒を楽しむなど、楽しい時間を実現している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、おやつの量など記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	良くお聞きしてから、その方のペースに合わせた、口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が無いよう、タイミングを考慮した声掛けをしています。食後のトイレ誘導は、声掛けをしてタイミングを探って実施しています。	個々の反応を観察し、声掛けを行い誘導している。失禁のないタイミングで誘導することを、職員で話し合い実施している。夜間のおむつやパット等の交換を体位交換の機会として捉え、褥瘡防止も考慮したケアを実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に気をつけています。牛乳、ヨーグルトを朝食の時に召しあがって頂いています。酒・ポカリも活用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりしたペースで希望にそった入浴をして頂いています。時間をずらしたり、本人の意向を大事にしています。	週に2回の入浴を目標にしている。午後の入浴希望にも対応している。入浴は2人の職員で対応し、入浴後は耳かきやマッサージ・保湿を行い、楽しみの一つになっている。入浴剤やゆずを使用するなど、入浴時の多彩な会話の機会作りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり話を聞いて、何を思っているのか、どうしたいのかを感じ取って、安心している状態になるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に細かな報告をして、薬の調整をいただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	もやしのひげとり、梅ジュースを作ったり、栗の皮むき、クリスマスツリーの飾りつけなどを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	観音山、護国神社など出かけ、味噌おでんなどご馳走になったり、地域の人と触れあっています。	花見やお参りに出かけている。事業所のテラスに出て外気浴や景色を楽しむとともに、猫が来たり、狸を目撃したり、野鳥の観察ができるなど、思いがけない経験も楽しみの一つになっている。今後も利用者2人ずつの個別の外出を計画している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	頼まれたものは職員が買い物に行っています。立替えて、ご家族に月一回報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	掛けたい時に電話をかけて頂いています。はがきが届いた時は一緒に読んでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族的な雰囲気を大事にしています。テーブルも自由に座って頂いています。ソファもくつろぎやすい形状です。	好きな場所に座っていただいて、決まりがないことで自由な空間が作れている。ソファで横になる利用者もいる。換気や日差しの調節は職員が行い、居心地よく過ごせるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたり、ソファで横になったり、こたつで眠ったり自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅にあった馴染のものを置いていただき、居心地よく過ごせるようにしています。	部屋のレイアウトは、家族が行っている。写真や作品が飾られている。日々空気の流れ替えを行い、乾燥した寝具で寝ていただくとともに、寝たきりにしないケアを心掛け日々実践することで、安心出来る空間作りが実現している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は手すりがトイレまでつながるようにしてあります。玄関にはスロープがあります。		